

ROTARY INTERNATIONAL

Rotary 松江ロータリー・クラブ 週報

MATSUE WEEKLY

2017-18年度国際ロータリーのテーマ
ロータリー：変化をもたらす

No. 3182

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985
HP: <http://www.matsue-rotary.jp> E-mail: office@matsue-rotary.jp

第3182回例会(平成29年11月1日・水)

今週のプログラム

11月1日(水) 会員スピーチ
「最近の空港事情とコンセッション化について」
出雲空港ターミナルビル㈱取締役管理部長 きののりひこ 紀野典彦氏

次週のプログラム

11月8日(水) ゲストスピーチ
「島根大学の「知の力」を活かして、世界の農業に貢献する
～留学生を通じた発展途上国での植物保護技術の普及～」
国立大学法人島根大学 生物資源科学部 教授 うえのまこと 上野 誠氏

誕生日

大谷 公夫	会員	1日	小林 祥泰	会員	5日
尾崎 正史	会員	8日	妹尾 雅雄	会員	19日
内藤 守	会員	19日	廣江 潤	会員	23日
井上 晴夫	会員	26日	杉原 有	会員	28日
仙田 一恭	会員	30日			

出席100%賞

波多野秀明会員 15年

例会変更のお知らせ

月 日	クラブ名	受付場所
11月15日(水)	大 社	出雲商工会事務局(大社町杵築南1314)
11月20日(月)	米 子 南	ANAクラウンプラザホテル米子
11月24日(金)	米 子	ANAクラウンプラザホテル米子

2017年(平成29年)11月の予定

- 11月1日(水) 定例理事会
- 11月12日(日) 松江ロータリー秋季ゴルフコンペ
島根ゴルフ倶楽部(10時集合)
- 11月18日(土) 家族交流 秋の味覚を堪能する会・
新入会員歓迎会
場所：(株)暉祥 地のもの市場
時間：16:00～
- 11月22日(水) 定款第8条による休会



本日のエレクトーン 糸川恵美子 さん

第3181回例会記録

平成29年10月25日(水・晴れ)

会員数	70名	ビジター	なし
出席者数	46名	メーキャップ	竹岡(平田)、後藤(松江東)
欠席者数	24名		今井、川上、波多野、古瀬(松江しんじ湖)
出席率	73.02%(出席免除会員含む)		井戸内、小村、尾崎正、尾崎俊、舟越(地区大会)
前々回補正	90.48%(出席免除会員含む)		

会務報告

伊原会長

- ゲストスピーカー紹介
フリーアナウンサー いしはらみわ 石原美和様
- 10月25日(水) 職場訪問例会報告
- 10月22日(日) 地区大会報告
表彰 中村寿夫会員 メジャードナーレベル1
盾贈呈
- 信太秀夫会員 ホームクラブ100%出席
30年以上 盾贈呈
- 松江クラブ 年次基金一人当たり150
ドル以上達成クラブ

森岡幹事

地区大会登録料12,000円は振込をお願い致しません。
次週例会終了後、定例理事会開催

委員会報告

クラブ管理運営 親睦・出席委員会 立石会員
出席報告

スピーチ

「和の心、島根から世界へ」

フリーアナウンサー 石原美和氏



ニコニコ箱

13,000 円

伊原、今井、佐藤尚、中村、森岡（ゲストスピーカー石原美和様のスピーチに期待して。）

小村（職場訪問例会 中国電力妹尾さんお世話になりありがとうございました。）

紀野（倉敷の地区大会みなさまお疲れさまでした。）

乾（安定政権実現のため力を尽くされた細田重雄、福田正明両県議に感謝を申し上げます。）

永通（拙文掲載）

長野（看護学校講義にて今週から数回早退させて頂きませす。）

細田（結婚月）

ベストメッセージ賞：該当者なし

司会 原田会場監督

ひとこと
随想

砲車を牽く骸骨



いぬい たか あき
乾 隆 明

北朝鮮がミサイルを一発打ち上げるだけで、彼らの準主食とでも云うべきトウモロコシの一年分の購入資金が消え去るとの由。既に餓死する国民が出ているそうである。馬鹿げた事だが、太平洋戦争に突入するまでの日本も、同様な愚かしいことをしていたものだ。

軍部の意に沿わぬ政治家が次々に暗殺され、犬養毅首相、高橋是清蔵相、浜口雄幸、井上準之助蔵相や、軍縮会議に何度も参加した若槻禮次郎首相は、戦争に反対する人物として、暗殺リストの上位にあると囁かれていた。

若槻禮次郎の回顧録『明治・大正・昭和政界秘史』は私の愛読書の一つだが、内容で気に入っているのは「砲車を牽く骸骨」という演説のくだりである。

「国防の充実には財政との調和を計って行わねばならぬ。財政との調和を無視し、国民の負担をかえりみないで軍備を拡張すれば、大砲は出来るだろうが、その大砲を牽く者は骸骨であることになる。骸骨が大砲を牽くようになれば、軍備は充実するどころか、かえって弱体化する」と演説した。

この様に極端な言葉を用いたのも、要するに、それによって国民に警告することを期したからである。翌日の各新聞は「国防の充実を妨げる者は、いかなる地位にある者でも容赦なく引っ括ってしまう」という陸軍大臣の談話を掲載した。

まるで暴力団の脅しのようだが、口先だけではなく、暗殺の実行部隊とでも云うべき「青年将校」を焚き付けるようなものだから、若槻禮次郎氏の勇気を褒め称えるべきであろう。

若槻氏は、東京であれ大阪であれ、暗殺される危機感を行く先々で感じていたようだ。一番のお気に入り、故郷松江の嫁ヶ島であった。魚一の「いつあん」という名物親父に嫁ヶ島まで舟で送り届けてもらおうと、ゴザを敷き、ゴロリとなって酒を飲みながら「ここは人も来ず、電話も鳴らず、一番気が休まる所だのう」と喜ばれた由。

また当時は島に松の木が一本しかなく、「さみしげだけん、もうちょんぼし松の木を植えたら」と若槻氏が云われたので、「いつあん」が何本か増殖し、現在の景色になっているようだ。

（歴史研究）